

No. 96

すくらむ

2021.10.15 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P.1

巻頭言

「共生社会に向けて」

P.2

・令和3年度の研修講座について

P.3

・高等学校における特別支援教育について

P.4

・校内就学相談の進め方の研修について
～市町教育支援委員会の充実に向けて～
・実践研究発表会のご案内

巻頭言 「共生社会に向けて」

高校教育課 特別支援教育室長 林 久美子 氏



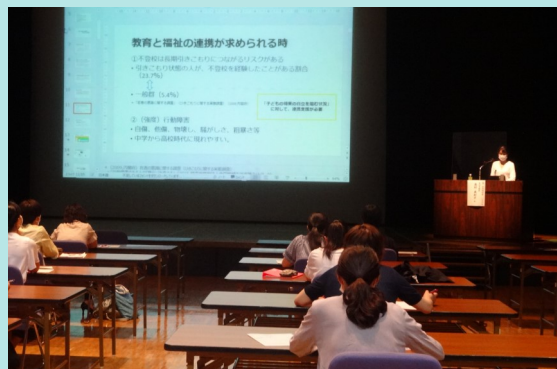
57年ぶりに東京で開催されたパラリンピックが9月5日に閉会しました。開催期間中は活躍する選手の姿に感動し、幾度となくテレビの前で涙を流しました。「違いは強みであって弱みではない。」、アンドリュー・パーソンズ国際パラリンピック委員会会長の言葉です。多様性を認め合い、全力で前に進む選手たちの姿に、多くの人が釘付けになったのではないかと思います。

共生社会にむけての第1歩は、「障がいのある人たちに関心を持つこと」ではないかと思っています。障がいのある人たちも、自分とは違う障がいのある人に関心を持ってほしいと思います。学校教育においては、平成24年より共生社会の形成を目指してインクルーシブ教育が進められており、福井県では平成27年度からの5年間で特別支援学校と全ての小・中学校が交流及び共同学習を実施しました。小・中学校では特別支援学級と通常学級の交流が日常的に行われていることと思います。インクルーシブ教育システムとは「人間の多様性の尊重等を強化し、障がい者が精神的および身体的な機能等を最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組み」のことです。コロナ禍にあり、直接の交流は難しいこともありますが、ICT機器等を使用して、そのつながりをぜひ継続してほしいと思います。そして、それぞれに関心を持ち続けてほしいと思います。パラリンピックの選手をテレビの前で応援していた方々も然りです。

先日美術館に出掛け、「生命賛歌」という題名の影絵作品に出会いました。人、動物、鳥、魚、蝶、木、花、山など地球上に命を宿る全てのものが一堂に会し、音楽を奏でてそれぞれが伸び伸びと輝いていました。魚は海を飛び出し、鳥と一緒に空を舞っています。うっとりと見入ってしまうようなそんな世界が未来に待っていますように・・・と目に焼き付けて帰途につきました。

[illegible]

昨年度「特別支援教育担当教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクト」の取組において、当センターの研修の整理や見直しを行いました。今年度は、「自校の特別支援教育コーディネーターの業務を円滑に遂行することができる」、「特別支援教育に関する知識や気がかりな児童生徒を支える指導力を身に付ける」ことをねらいとし、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーター経験2年目以降の先生方に向けた研修講座を設定しました。



高等学校における特別支援教育について

高等学校においても特別な教育的ニーズのある生徒に、障がいの状態などに応じた指導や支援を行っています。本人・保護者が合理的配慮の提供を求めている場合には、積極的に対応していくことが望まれます。また、通級による指導（高校通級）を受けている生徒も年々増えてきました。以下では、県内の高等学校における校内支援体制作りや現職教育、実際の支援の一例をご紹介します。

【A高等学校における取組】

■ 校内特別委員会 メンバー：管理職，教務部長，保健主事，教育相談，特コ，学科主任で構成

A高等学校の特コに
インタビューしました



気がかりな生徒を校内でどのように支援をしていくか，高校通級が必要かどうかなど，必要に応じて開催しています。学年主任や教科主任，担任が入ることもあります。

■ 「支援のスタートは本人・保護者から」 合格者登校日に配る冊子の中に，高校通級や気がかりなことがある保護者を対象とした面談案内などの内容を盛り込んでいます。本人・保護者からの配慮要請が支援のスタート。中学校から高等学校へのスムーズな移行支援につながっています。

■ 「現職教育で校内のスキルアップ」 スクールカウンセラーと連携した研修を年一回行っています。配慮が必要な生徒の事例を共有したり，生徒にかかわる障がいについて学んだりして，校内の教職員の特別支援教育に対するスキルアップを図っています。



A高等学校の特コは，特コとして校内でいろいろな先生方と話をすることを大切にされています。支援や配慮を要する生徒を校内みんなで支えているA高等学校の温かい校内支援体制には，校内の人々をつなぐ特コが存在が欠かせないと感じました。

【B高等学校における取組】

B高等学校では，年3回教育相談研修会を実施しています。事例検討をしたり，就労支援について学んだりなど，校内の課題やニーズに応じて相談係が企画しています。ここでは，昨年度末の研修について紹介します。

校内における特別支援教育の現状と高校通級に対する理解を深めることを目的に，実際に行っている通級の授業を紹介し，先生方に体験してもらう形で行いました。体験した活動は，『自分らしさを探そう』をテーマに，ワークシートに自分の得意なこと，好きなことを記入してグループで自己紹介し，グループメンバーから「いいね」メッセージを受け取り，自分の良さに気付くという内容でした。研修後の感想では，「初めて通級の授業に触れる先生方もおられ，通級指導を知る機会になったことが良かった」「自立活動について理解できた」「『話す』『聞く』という言語活動を通して，自分の良さを認識する機会にできると思う」などが寄せられました。研修後，通級担当者と担任とのつながりが深まり，担任が通級の授業に参加し，一緒にソーシャルスキルゲームを行うなどの機会も増えたようです。



この研修を通して，高校通級についての理解，特別な教育的ニーズのある生徒理解を深める良い機会となっていたと感じました。

【授業が分からず不登校気味になっていた生徒の支援をチームで考えた事例】

Cさんは，中学校から数学が大の苦手でしたが，本人が選択したコースでは，2年生から簿記やビジネス実務などの授業があります。本人は，その専門教科が全く分からず，その授業がある日はお腹が痛くなり，その授業が終わったら登校するなど，非常に辛い思いをしていました。そこで，本人，保護者，担任，学科担当者，学年主任，特コ，センター所員で支援会議を行いました。本人が，簿記などの教科書を読んでも内容が入ってこないという思いを受けて，担任がNHK高校講座を視聴することを提案。本人は，それならやれそうだと納得し，保護者とともに視聴することにしました。また，教科担当者からは，検定試験に向けて問題集のどのページを繰り返し解くといったのか具体的に伝えてくださいました。また，教科担当者の空き時間に質問に行くことに決まり，それらのことは個別の教育支援計画に記載されました。現在，Cさんは，遅刻や欠席をすることなく登校しているということです。担任一人に任せることなく，本人の思いを大切にしながらみんなでアイデアを出すことでCさんへの適切な支援を考えられたのだと感じました。



校内就学相談の進め方の研修について～市町教育支援委員会の充実に向けて～

当センターでは、市町教育委員会と連携し、市町教育支援委員会の充実に向けての取組を継続して行っています。今年度は、校内の就学相談の充実に向け、特コ連絡協議会などの研修の機会に「校内就学相談の進め方」と題した研修を行っています。研修実施に当たっては、市町の指導主事と市町の実情や課題について話し合い、それらに応じた研修の内容や流れを検討しました。できるだけ、参加される先生方に主体的に考えていただくために、講義形式だけではなく、身近にありそうな学びの場の変更に関わる事例を提示しました。参加者は、管理職、特コ、通常学級担任など様々です。事例では、通級指導、特別支援学級への学びの場の変更を視野に入れる場合に、校内で検討しなければならないことについて考えていただきました。

大切にしたいポイントは、①学びの場について正しく理解すること ②本人の実態を正しく見立てること ③学校の教育環境を顧みること ④校内就学指導委員会（教育支援委員会）で協議すること です。グループ協議では、これらのポイントに関わる気づきや発言がたくさんあり、校内の就学相談について改めて考えるよい機会になりました。今後も、この研修を継続して実施していく予定です。



A市町の参加者からのアンケートより

- ・就学相談の進め方について、検討すべきポイントがあることが分かり、勉強になりました。
- ・就学相談の進め方について、あいまいだったところがよく分かりました。

B市町の参加者からのアンケートより

- ・事例検討を通して、自分の中で以前より問題点を見つけられるようになってきたと感じました。しかし、まだ足りないところがあり、グループの先生から様々な観点を教えてもらい、学ぶことができました。

C市町の参加者からのアンケートより

- ・通級指導のあり方や、学びの場が変更されるまでの就学相談のプロセスが分かりました。校内でも周知し、今後さらに理解を深め、保護者と向き合えるようにしたいです。

A市町の指導主事より

遠隔（Teams）で行うことで、特コだけではなく校内の先生方にも研修を受けてもらい、校内就学相談の進め方について学校全体で理解してもらえてよかったです。

B市町の指導主事より

学校によって特別支援教育の理解や体制が様々なので、このような研修の機会は大切だと思います。

C市町の指導主事より

全ての学校の教頭兼特コに参加していただくことができました。就学相談に対する正しい理解が各学校でさらに進められると思います。

事例検討の際は、活発な意見交換をありがとうございました。
この研修で学んだことを、校内の就学相談を進める上で生かしていただけると幸いです。

実践研究発表会のご案内

特別なニーズのある子どもを支える～連携や協働を通して～

特別なニーズがある園児児童生徒への指導や支援の在り方、園・学校内外で連携して取り組む特別支援教育に関する実践研究の発表を通して、広く意見や情報を交換し、指導の一層の充実と教職員の資質向上を図るため、『実践研究発表会』を毎年開催しています。ぜひご参加ください。

日時：令和4年2月9日（水）

主会場：福井県特別支援教育センター

発表形式：参加者と遠隔システムでつないで実施

各所属校・機関からご参加いただけます！

発表者

募集中！

☆ 詳しくは、各園・学校・機関に配付する開催要項（12月末配付）をご覧ください。
また、ホームページでもご案内いたします。

センターだより

すくらむ 第96号



発行日 令和3年10月15日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846
福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776)53-6574
FAX (0776) 52-6272

E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp

URL <http://www.fukuisec.ed.jp>